

# 牛馬のいる草原の風景



草原の優しさは、母の柔らかさ。

今月は、阿蘇の代名詞ともいえる、牛や馬のいる風景。そして四季折々に美しいカルデラの風景を考えます。

阿蘇の畜産は繁殖が大半を占めます。したがって草原に放牧されている牛馬はメスと子どもです。それもほとんどの牛馬がお腹に赤ちゃんがいます。草原の豊かさ、穏やかさは、農業の営みと母のぬくもりとが生み出した最高の風情です。

九州を代表する観光地阿蘇。その人気と質の高さは、来年発行される地方自治法施行60周年記念硬貨の図柄に採用されたことでも証明できます。

誰からも愛される阿蘇の風景ですが、畜産農家の減少などで、近年景観維持が危ぶまれています。

今後、何の手当てもしなければ、10年後には高齢化などで野焼きができなくなり、年々原野が雑木化します。自然形態が変わるほか、大火災の危険性も非常に高くなります。

草原存続の危機の問題については、10月13日の熊本日日新聞でも大きく取り上げられました。

草原維持には今後、飼料以外に草の活用方法を多様に考えていく必要があります。そして、私たち一人ひとりが、草原維持に関心を持つが大切です。

「もう見過ごせない。」  
今、この危機からの脱出をかけ、大きな希望が動き出そうとしています。

## 千年の歴史ある草原を、明日からの千年へつなげるために

県知事はじめ経済界も一丸となり

### 阿蘇草原再生千年委員会を発足

阿蘇の草原を守るようと、県内の行政、経済界、報道機関、学識経験者でつくる「阿蘇草原再生千年委員会」が、10月12日、発足しました。構成メンバーは、下の表のとおりで、多くの方が草原維持に賛同されています。

この委員会のほかにも、様々な団体や学校などで草原を守る取り組みがなされています。こうした活動が地道に行われていることで、県内外の人たちへも広く草原への関心と理解が深まったといえます。

### 「草原特区」を提案!

阿蘇市は、国が今年6月に策定し、9月21日を期限に、企業や自治体に提案を募集した「総合特区」に、草原維持を指した「草原特区」(仮称)を提案しました。

「総合特区」は、国の成長戦略に盛り込まれた制度で、規制緩和や税制、財政面の優遇、金融支援措置などを受けることができます。

■千年委員会は、牧野組合やボランティアなど約140団体でつくる「阿蘇草原再生協議会」(高橋佳孝会長)の活動を支援。今後3年をかけて、①阿蘇の草原の危機的現状などを伝えるキャンペーンの展開 ②募金活動 ③永続的な支援の仕組みづくり ④世界文化遺産登録に向けた支援などを行います。

### 阿蘇草原再生千年委員会構成メンバー

熊本放送社長…浅山弘康 農林水産省九州農政局長…飯高 悟 熊本日日新聞社社長…伊豆英一  
肥後銀行頭取…甲斐隆博 熊本県知事…蒲島郁夫 環境省九州地方環境事務所所長…神田修二  
阿蘇草原再生協議会会長…高橋佳孝 生活協同組合連合会グリーンコープ連合会長…田中裕子  
NHK熊本放送局長…中島靖夫 九州経済連合会会長…松尾新吾 前熊本県立大学学長…米澤和彦  
事務局・財団法人阿蘇グリーンストック理事長…佐藤義興